

出張報告

報告日 令和4（2022）年10月5日

会派名	日本共産党柏崎市議団
報告者氏名	持田 繁義、樋口 良子
種別	<input checked="" type="checkbox"/> 調査研究（ <input checked="" type="checkbox"/> 行政視察） <input type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input type="checkbox"/> 各種会議
用務	会派行政視察
日時	令和4年7月29日（金） 10:00～16:30
場所 （会場）	新潟県三条市 1. 一ノ木戸ポプラ学園（三条市立一ノ木戸小学校/三条市立第二中学校） 2. マルナオ 株式会社 3. 株式会社 諏訪田製作所 4. 株式会社 タダフサ
調査項目等	1. 三条市が小中一貫校を開設するに至った経緯、学校運営における現状とメリット、デメリットについて 2. 三条市地場産業における現場の状況と後継者の育成等について
概要	1. 三条市小中一貫校に関する意見交換及び現場視察 ①三条市が小中一貫校を開設するに至った経緯、学校運営における現状とメリット、デメリット等について、三条市立一ノ木戸小学校、第二中学校のそれぞれの校長先生及び教育委員会の担当職員より説明を受け、その後、質疑、意見交換を行った。 ②小中一貫校の学校施設全体を見学させていただき、学校施設の有効活用についての事例を学んだ。 2. 三条市地場産業における3つの事業所（工場の生産現場）を見学させていただき、魅力ある製品づくり、技術の継承、若者が魅力とやりがいを感じる生産現場の現状、若者の就労・後継者の育成等についての成功事例を学んだ。
所管等	【持田 繁義】 1. 三条市における小中一貫校についての教育委員会との意見交換及び現場視察 一ノ木戸ポプラ学園（第二中学校・一ノ木戸小学校）視察 ①小中一貫教育導入の背景と経緯 ②学園体制について ③小中一貫教育の具体的な取り組み

④小中一貫教育の成果と課題 ※コミュニティ・スクール

以上の概要説明いただいた。

私が質問したのは、人事異動の関係と教師集団の研修、そして小中学校の合同の「文化祭」実施の有無などである。

一定の成果とともに誰が指導的立場になり、議論がどこまで及ぶのか課題のあること。「文化祭」の乗り入れ的な合同実施はされていないということ。

三条市では、小中学校9年間を通して、一貫校としてのメリットを生かし積み上げていくことが表向きの理由となり、地域住民、父母からの様々な意見があるなか、学校統合を含めた教育行政をいわば強行した形で今日に至っているというのが私の認識である。

学力の向上はもとより、学習力の向上がどのように変化しているのか、高校や大学受験への成果はどのようになっているのか、スポーツ力が持続的・発展的にどのように取り組まれているのか、PTAの活動と地域がどのように結び合っているのかなど、中身に入ってもう少し時間をとって質問したかった。

コミュニティ・スクールは、学園運営協議会に15名のメンバーで定期協議のなかで運営されている。この成果のなかで「あいさつが向上した」という点では興味を持った。

2. 三条市の地場産業の状況。以下の三社を視察

●(株)マルナオ

建物自体のセンスが良く、若者の興味を引き入れる魅力を持った工場という印象。その点で働く方々の半数近くが女性であること。女性活躍社会の先進ともいえる。敬意を表するとともに大いに成果を上げていただきたいと祈念する。

●(株)諏訪田製作所

たんなる爪切りではない、デザイン性と技術を兼ね備えた見事なものである。

ここでも若者と女性が輝く職場となっていることが印象的である。こうして若い方々へと継承されていく、その真髄を示唆している。歴史は無駄に流れていない金物技術である。

●(株)タダフサ

料理人と包丁。きっても切れない「命の道具」を生産している。ものづくりへのこだわり、その熱意は言葉に表せない感動のものであった。

○「金物のまち・三条」。「ものづくり」とは。受け継がれた伝統、誇り、未来をつくる力。じっくり教えられた視察となった。原発からの脱却こそ、痛感した。

【樋口 良子】

1. 三条市における小中一貫校についての教育委員会との意見交換及び現場視察

一ノ木戸ポプラ学園（第二中学校・一ノ木戸小学校）視察

三条市の小中一貫校の今までの経緯と現状を学んできた。学校教育目標に加えて、「まなび」「こころ」「からだ」「ちいき」のグランドデザインを掲げて、小中学校9年間を通して、取り組んでいることが、一貫校としてのメリットだと思った。小学校、中学校の教職員のみなさんが、日頃から話し合いをおこなっていて、加えて、市からも職員を配置していることは大変評価できる点である。

子どもたちにおいて、中学生が小学生に教えていること、また、小学校の教職員が中学生の事業も担当していること、「懐かしい先生にまた教えてもらう機会ができた」など、とても感動した点である。

ただ、一貫校に至るまでの児童生徒・保護者や地域からの意見、質問（通学時間が長くなるなどの心配など）を、もう少し詳しくお聞きしたかった。

当日は、猛暑にもかかわらず、児童生徒たちが、バスケット・卓球・バレーボールなどの部活で、イキイキと一生懸命取り組んでいる姿を拝見出来て、元気のよい挨拶もしていただき、とても良かったです。

2. 三条市の地場産業の状況

①(株)マルナオ

(株)マルナオ様について、先ず感じたことは、建物自体がとてもセンスが良く格好いい印象を受けた。だからこそ、若い世代の方々にも、興味を持ってもらえるのだろう。工場内は、職人さん方々の高いレベルの技を、ガラス越しで拝見出来、また、説明して下さった職員さんがお若い女性で、とても分かりやすく説明して下さり、好印象であった。職人の半数近くが女性であることにも驚いた。工場内は、大変きれいで、清潔な環境でした。昔の町工場の3kというイメージは全くなく、このような環境が、若い世代の皆さんの、就職に結びつくのかと感じた。それにしても、貴社のお箸づくりの技術の高さは、高く評価できるものだと痛感した。

②(株)諏訪田製作所

(株)諏訪田製作所様について、Gデザイン賞の爪切りの技術、光を微量とも通さない技、お見事としか言いようがないハイレベルな技術。この工場でも若い広報担当のイケメンの男性が説明して下さり、とても感激しました。私はたまたま昔のデザインの爪切りを 持っていましたが、それとはまったく違ったセンスの良いスマートな形に進化されており、それにもびっくり、感動した。工場内に、職員食堂としてのレストランがあったが、昼時を過ぎると一般客にも解放され、親子連れやカップルでにぎわっていた。落ち着いた雰囲気、かつ、センスがいい素敵な空間であった。

このような環境が、若い世代が、歴史あるものづくりへの興味とつながり、職を求めてくるのだと感じた。

③(株)タダフサ様について

いろんな形用途の包丁作りを、職人のみなさんの近くで、視察させていただきました。猛暑の中で、懸命に製品作りに取り組まれている姿に感動しました。説明して下さった方の、熱意もひしひしと伝わり、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

*最後に全体を通して

三条市の脈々と受け継がれてきた伝統あるものづくりの現場を直接視察させていただき、職人のみなさんの熱意、そして、それを、会社全体で支えていることを学んできました。柏崎市も大いに参考になると痛感してきました。

